

2021年度 全国普及育成・指導者養成担当者会議

< 質問・意見・回答 >

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会

運動部活動改革／運動部活動の地域移行に関して	
Q-1	
	中体連と陸連の枠組みの中で、なにか変更される部分はあるのか。
A-1	
	【スポーツ庁】部活動改革において、大会の在り方も大きく関わる。中体連と調整を進めている。地域移行が進んだら、全中の大会に対して様々な形態のチームからの出場が可能になればよいが、学校単位としての中体連の存在意義が大きいので、ハードルは高い。NFやPFに協力を得て、現状の大会以外で子供たちの成果発表の場を別の形で設ける可能性もある。地方大会で県の中体連、県の競技団体に協力できるのであればオープン大会をやってもらいたいが、中央競技団体における大会の在り方がポイント。
Q-2	
	平日も地域に移行するのはいつごろか。
A-2	
	【スポーツ庁】休日は、改革の第一歩としての方針という認識。やがては平日も移行していくことも視野に入れているが、休日だけでも移行するには大変な労力を必要とする。現在はいつまでに休日の完全移行ができるのかという先の見通しが立たないので終わりを決めていない。それ故平日の部活動をどうするか決めるのは相当先の話になる可能性がある。
【意見・共有事項】	
	【意見】中学をうまくやっっていこうとすれば、高校との連携がカギになるのではないかと。高校には専門の先生がいるので、各高校とうまく連携して指導者を中学で活用すれば、良い方向に進むのではないかと。例えば中学の経験のない指導者が学ぶこともできるから意味がある。ただし、大きい学校になると難しい可能性がある。小さい学校の例が示されたものの、大きい学校だとどうなるのか、考えておく必要がある。 【スポーツ庁】高校を受け皿として考えるというのはわれわれの思考にもなかった。教員の働き方改革というのがスタートになっているので、高校の指導者の負担が増える可能性もあるが、高校を受け皿として考えることは、新しいアイデアで傾聴に値する。
	【意見】小学校から子どもたちは専門的なスポーツ・運動への参加になっているように思う。また、指導者に限らず、保護者も結果を期待しているところも見受けられる。よって、結果を知る場として大会の開催を願っているのも事実。相当過激な発言ですが、小学校・中学校までは思い切ってオンシーズン、オフシーズンを設定し、いろいろなスポーツの体験をさせるそういう時期にするのもありではないかと。その受け皿が総合型地域スポーツクラブではないかと考える。専門的な運動は、高等学校からでもよい、という思い切った方策も……。しかし、日本ではハード面を考えると現実的には難しいと思っている。

指導者養成、資格制度について	
Q-3	
	2019年度までU-16ブロック研修合宿を行っていたが、2020から中止となった。代替事業はないのか。
A-3	
	指導者に向けた事業を広く検討している。まったく同じ内容ではないが、スタートコーチもその一環としてお考えいただきたい。
Q-4	
	公認コーチの受講条件について、ジュニアコーチを持っていないと認められないとなっているが、これまでは“原則”とっていたのが今年度はない。今年度も猶予期間にできないのか。

A-4	
	3年間の猶予期間を設けていた。昨年、講習会はできなかったが、この2年間の“原則”は移行期間として考えてきた。次年度はジュニアコーチ保有が条件となる。JSPOも同じ考え。
Q-5	
	スタートコーチを受けないと、ジュニアコーチは受けられないのか。最初からジュニアコーチでも良いのか。
A-5	
	最初からジュニアコーチを受けられる。それぞれの資格および資格取得講習会に関する資料を確認し、自身に適した資格を取得していただきたい。
Q-6	
	スタートコーチのメリットについて聞きたい。
A-6	
	資料5参照。全ての指導者に資格を持っていただく考えの中、養成計画を立てている。スタートコーチの割合を年々挙げていく予定で、陸連の養成資格の大きな割合を締めることとなる。2026年に15000人に到達するよう計画している。スタートコーチは重要な資格であることを理解の上、協力していただきたい。

その他

【意見・共有事項】

- 【意見】次回以降の開催時間について提案です。平日では、今回の中体連担当者が参加出来ません。土日開催になりませんか。
- 【陸連】平日仕事をされている方がおられるのをわきまえた上で、たくさんの声を聞いて検討します。それでも平日とせざるを得ない場合は、代替手段を議論します。

以上
2022年1月末日